

## 4 人材育成活動

## □ 産業振興分野

### 地場産業再生 MOT フォーラム

第4回目となる地場産業再生MOTフォーラムを2014年2月26日に大津プリンスホテルで開催した。このフォーラムは、新商品開発への挑戦事例とMOT(技術経営)をベースにした取り組み事例を紹介し、活発な質疑応答を通じて地場産業再生人材の育成をねらいとしたものである。

金沢工業大学大学院 教授 杉光一成氏に「デザイン・ドリブン・イノベーションと知財」と題して特別講演いただいた。デザイン・ドリブン・イノベーションを「従来と異質(破常識)の快い体験を顧客に提供するアイデアを事業戦略上の最上位に位置づけ、それを具現化して人々に提案し、新たな市場を創り出すこと」と定義し、従来の一般的なデザイン定義との違いを比較するとともに、その有効性を事例紹介いただいた。本センターの山本卓特任教授から、「融合発想法」をベースにして伝統工芸間の融合で生まれた7つの新コンセプト商品の説明があった。滋賀県の地場産業と伝統工芸の挑戦事例として、滋賀県東北部工業技術センターの山下誠児氏より、和紙とエレクトロニクスの融合から創案されたDisplay Andonの商品コンセプトの説明があった。滋賀県信楽窯業技術試験場の川澄一司氏より「新たな信楽焼の開発と技術移転」と題して透光陶器の開発についての講演があった。森彫刻所の森靖一郎氏より「ケータイ彫刻への挑戦」と題して、伝統的な仏壇彫刻の技術をベースにして、浮き彫りの極限の薄さへの挑戦によりスマートフォン向けのケースを開発した事例が紹介された。滋賀県中小企業団体中央会の中嶋和繁氏より「伝統工芸の活性化支援」のテーマでご講演いただいた。さいごに本センター近兼敏客員研究員から伝統工芸の海外市場展開への支援活動について講演があった。約80名の参加者の方々の真剣な聴講、活発な質疑応答が行われ、充実したMOTフォーラムとなった。本フォーラムならびにフォーラムの併設企画展示会「伝統工芸の融合展」の様子はテレビ、新聞に報道され、人文社会系大学の主導による産学連携の新しいスタイルを地域へ情報発信することができた。

(文責 特任教授 山本 卓)



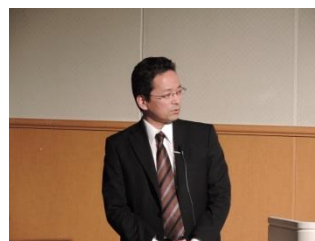
【杉光 一成 氏】



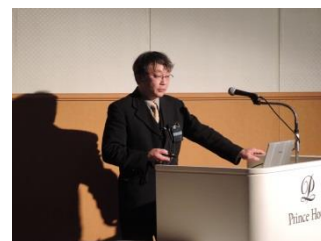
【会場風景】



【山本 卓 氏】



【山下 誠児 氏】



【川澄 一司 氏】



【森 靖一郎 氏】



【中嶋 和繁 氏】



【近兼 敏 氏】



2013年度  
滋賀大学 社会連携研究センター MOTプログラム

# 第4回 地場産業再生 MOTフォーラム

伝統工芸を含む地場産業の活性化をねらいとした、新商品開発への挑戦事例、MOT(技術経営)をベースにした取り組み事例を紹介します。また、デザイン・ドリフン・イノベーションについての特別講演を行います。さらに、このフォーラム会場の隣に「伝統工芸の融合」展を併設し、これまでの開発成果をご覧いただく企画展示を行います。

2014年 2月26日(水)

13:00~16:00(開場12:30)

会場:大津プリンスホテル 比良(2F)

(JR大津駅から無料シャトルバスで10分)

定員:60名/参加料:無料(先着順)

※企画展示会:11:00~17:00 伊吹(2F) 入場自由

同時開催:企画展示会  
**伝統工芸の融合展**



**〈プログラム I〉**

司会:滋賀大学 社会連携研究センター 特任教授 山本 卓

13:00~ 開会の挨拶 滋賀大学 社会連携研究センター長 野本 明成

13:10~ 特別講演「**デザイン・ドリフン・イノベーションと知財**」  
金沢工業大学大学院 教授 杉光 一成

14:30~ (コーヒーブレイク)

**〈プログラム II〉**

司会:滋賀大学 社会連携研究センター 特任教授 若林 忠彦

14:40~ 一般講演~地場産業の挑戦~  
講演「**伝統工芸の新融合**」  
滋賀大学 社会連携研究センター 特任教授 山本 卓

講演「**和紙とエレクトロニクスの融合**」  
滋賀県東北部工業技術センター 山下 誠児

講演「**新たな信楽焼の開発と技術移転**」  
滋賀県信楽窯業技術試験場 川澄 一司

講演「**ケータイ彫刻への挑戦**」  
森彫刻所 森 靖一郎

講演「**伝統工芸の活性化支援**」  
滋賀県中小企業団体中央会 中嶋 和繁

講演「**伝統工芸の海外展開コーディネート**」  
滋賀大学 社会連携研究センター 客員研究員 近兼 敏

16:00~ 閉会

主催:滋賀大学 共催:滋賀県中小企業団体中央会  
後援:(公財)滋賀県産業支援プラザ、滋賀県、近江八幡商工会議所、彦根商工会議所、長浜商工会議所、(一社)滋賀経済産業協会  
お申込みは mail、TEL、FAX(裏面)のいずれかでどうぞ。